

適切で充実した部活動に

岡山県中学校体育連盟 会長
 (岡山市立岡山中央中学校 校長)

前 田 潔



本校では、朝学校に着くと、グラウンドから野球部員たちが大きな声で挨拶をしてくれます。週に一回はバスケットボール部員が校門で挨拶運動をしています。地域のボランティア活動には部単位で参加しています。生徒と部活動の話をするれば目を輝かせて話をしてくれます。勉強は苦手でも、部では大活躍する生徒もいます。

授業以外で、しっかり生徒とふれ合う時間を確保しているから、課題を持つ生徒との関係が良好に保たれている面があります。

また本県では、今年度全国から中学生のトップアスリートを迎えて、全国中学校体育大会の陸上競技、水泳競技、剣道を開催します。県下中学生に「生きる力」を育てる絶好の機会であるとともに、岡山の魅力を全国に発信する場でもあります。

このように、学校では部活動は大変重要な教育活動であり、生徒の成長に大きく貢献しています。

一方で、働き方改革の中で部活動による先生活方の勤務負担が問題になっています。実際の負担と負担感は必ずしも一致しないと思いますが、確かに部活動による負担が大きい先生活方がいます。

また、やり過ぎは生徒にとっても害があります。整形外科や整体に行くと中学生がたくさん治療を受けています。一流と言われる学

校の生徒やクラブチームの子どももよく見かけます。「スポーツにけがや障害はつきものである。それくらいしないと勝てない」と考えている指導者も多いと聞きますが、子どものうちから障害を抱えるほどの練習等は望ましくありません。

こういった状況を受けて、国から運動部活動に関するガイドラインが示されました。その頃から中学校体育連盟(中体連)に、時間が短くても競技力は低下しないのか、地域に受け皿はあるのか、地域には優秀な指導者はいないのか等の質問をいただくようになりました。また、するなするなと言いつつ休まず練習をして勝ったチームをこれまでどおり表彰するの、かという意見もいただいております。

中体連では、本気で取り組んでいる先生活方の部活動離れ、トップレベルを目指したい生徒の部活動離れ等、今度は違った問題が生じることも心配しています。週一回はもとより、月一回でも土日の部活動が負担に感じると言う先生方もいます。

ここにきて、これまでくすぶっていた様々な意見が一気に表に出ています。今が絶好のチャンスとも考えられます。関係者と連携しながら課題を整理し、生徒にとっても先生方にとっても適切で充実した部活動になるよう努力していきたいと考えています。